



ここは、とある町にある一風変わった診療所。悩みを抱えたユーザインタフェースたちがやってきます。Dr. ナカムラと一緒に病気を治してあげましょう。さて、今日の患者さんたちはどのような悩みを抱えているのでしょうか・・・

Dr. N 「次の方どうぞ～」

患者 A 「おはようございます。私はとある電子帳票です。すごく綺麗に作って貰った自信作なのですが、いつもユーザに悪態をつかれています」

Dr. N 「ちょっと診せてください」

患者 A 「はいどうぞ (図1)」

図1 事業実施伺票 一見綺麗に見えるが・・・

Dr. N 「……。あなたひょっとして、ね申さまって呼ばれたりしますか？」

患者 A 「はい、なぜだか私のことを『ね申』と言っているのを見かけます。偉いんですかね？」

Dr. N 「やはりそうでしたか…。これは日本の、特に官公庁や古い体質の会社で良く見られる症例で、ネットでは通称『ね申エクセル』と呼ばれています。特徴は表計算ソフトを単なる清書用のマス目として使い、自動化処理には全く利用しないところにあります」

患者 A 「どこらへんがダメなんでしょう？」

Dr. N 「この帳票は印刷して手書きで記入するのではなく、電子的に入力するんですよね？」

患者 A 「はい！我が社自慢のOAですから。もちろん最後は印刷してファイルに綴じて保存しています」

Dr. N 「例えば右下の①②③の欄に入力すると、合計や差引支給額は自動で計算されますか (図2)？」

患者 A 「いやですね先生。もちろん全部入力して頂かないとダメです」

Dr. N 「やっぱり。それぞれの項目に『円』がついていますが、『10,000円』などのように入力するんですよね？」

患者 A 「もちろんです。もとの帳票がそうだったので」

図2 謝金支払部分 (拡大)

Dr. N 「セルの中に文字列を残したまま数値を入力するのは手間ですし、何よりも表計算ソフトを使っているのに手計算しなきゃいけないのはおかしくないですか？」

患者 A 「いえ。私の目的は手書きの帳票をOA化して綺麗にすることですから」

Dr. N 「コンピュータ (=電子『計算機』) の一番得意なことを利用しないなんて勿体無さすぎます。たとえば『円』は別のセルにして、合計額を自動計算するようにするだけでも、ずっと使いやすくなりますよ。では、お大事に。それでは次の方どうぞ～」

患者 B 「私もよく ね申 と呼ばれるんです！是非診てください！ (図3)」

図3 講演依頼票

Dr. N 「えっと…、もしかしてこれは1つのセルに1文字ずつ入力するんですか？」

患者 B 「はい！以前は講演内容が大きな記入枠になっており、文字数超過に悩まされていました。私のおかげでみんな文字数を守るようになったのに何故か不評で…」

Dr. N 「あたりまえでしょ！1文字入力する度に確定して次のセルに移動して…というのは面倒すぎます！追加や削除もできないし…。ちなみに、提出された帳票はどう処理するんですか？」

患者 B 「はい。以前からずっと、印刷したものをしながら手打ちしています。このフォーマットにしてから文字数の超過が無くなって便利になりました」

Dr. N 「便利にするところを間違えていませんか？コンピュータなので、入力欄の文字数が200文字を超えたら警告を出すなんて簡単にできますよ。単一枠だと後でコピーするのも簡単ですしね」

患者 B 「わかりました。ありがとうございます！」

Dr. N 「…そもそも日本のオフィスにコンピュータが導入された時に、『手書きで書かれた帳票を綺麗に清書して印刷する』のがOAだと勘違いしたのが問題なんだよなあ…。だから以前の手書き帳票のマス目を忠実に再現したようなフォーマットが今でも多い。おまけに文字数字の混在や複数セルの結合が多用されているので、入力が面倒なばかりか、自動化作業にとっては邪魔でしかない。本来なら全体のワークフローを考えて電子化フォーマットをイチから設計し直すべきなのに、変化を嫌う『お役所体質』の弊害がこんなところにも出ているんだよなあ……。おっと。次の方どうぞ～」

患者 C 「先生、僕のも診てください！（図4）」

Dr. N 「うわあ。10センチ角を1つのセルで表現してレイアウトを作っているんですね…。しかしこんなもの良く作りましたねえ…。まあ、印刷するだけなら誰に迷惑をかけるわけでもないのですが、もうこれはこれでいいんじゃないでしょうか……。ええ、お大事に」

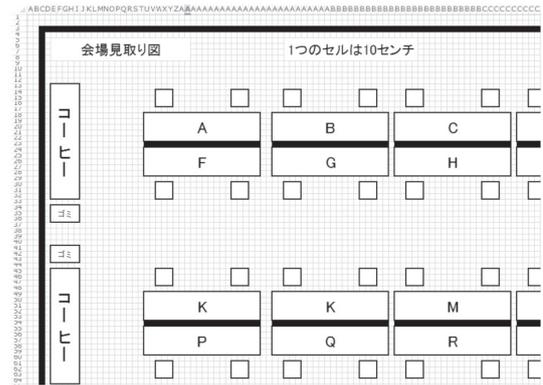


図4 部屋のレイアウト。もはや芸術の域？

今回の症例はいかがでしたか？読者の皆さんも、なぜこのような問題が発生したのか、どうすれば改善できるのかを考えてみてください（下のカルテに一例がありますが、もちろん答えはこれだけではありません）。なお、よりよい改善方法を思いついた方や、Dr. ナカムラに診てもらいたい患者をご存じの方は、<http://up.badui.org/> にご一報ください。



担当医：Dr. ナカムラ

BADUI 蒐集家。

日々新たなBADUIとの出会いを求め、カメラ片手に世界を飛び回る。

捕獲した貴重な品々は「楽しいBADUIの世界」<http://badui.org/>にて公開中。

Dr. トモクワのUIトリビア

初期のPCのワードプロセッサには罫線機能がなかったため、罫線を多用する旧来の帳票の再現ができにくかった。そこで誰かが表計算ソフトのセルを罫線代わりに使う方法を思いついたのが始まりらしい。そう言えば当時一世を風靡したワープロ(OASYS)の売りが「綺麗に罫線が引ける」ことじゃった。

診療カルテ	
ID	BADUI-015
氏名	ネ申さまたち
原因・主要症状・経過など	<p>2015.8.31 表計算ソフトを清書用のマス目としてのみ利用するネ申Excel(たろ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「10,000円」と入力するセル ・電卓で計算する必要があるセル ・文字数を限定するためのエクセル方眼紙 <p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手書き帳票を忠実に再現するのがOAじゃない!! ・コンピュータの能力(表計算や文字カウント)を有効に使えてない <p>→電子化の際には全体ワークフローを俯瞰し、自動化を考慮して設計する!!</p>
処方・手術・処置など	<ul style="list-style-type: none"> ・文字列は別のセルにし、数値だけを入力可とする。 ・自動計算できるところは自動化可! ・文字数は別の方法で数える!
	中村 聡史(明治大学)